

令和2年度 学校評価シート（自己評価）

十文字女子大附属幼稚園

1、園の教育目標

幼児の自主性、自発的な活動を大切にする保育の実践を基本目標とする。

幼児が自分達で考えた自由な遊びを中心とした園生活の中で、小学校就学までに幼児として必要な全てを身に付けさせることを目指して、家庭と密に連携しながら、次の教育を行う。

1. 保育者は、幼児一人ひとりの個性、能力を認めて無理させずに個々に対応する保育を心がけて長所を伸ばし、幼児が友達と深く交わって遊ぶ中で協調性、考察力、忍耐力、相手を受け入れつつ自己を主張できる社会性が身に付くように援助する。
2. 保育者は、本園の自然に恵まれた環境を十分に活かし、安全に成長が出来るように関わり、幼児が四季の移り変わり、生物への関心など周囲の環境に対しての探究を深められるように援助する。

2、具体的な目標や計画

1、教育・保育活動を充実させる取り組み

- ・保育者自身の向上に努める
- ・協力して全力で保育にあたる人間関係、環境を整える
- ・外部への情報発信とともに、外部からの意見聴取の機会を設ける。

2、保護者との連携を推進する。

- ・保護者の生活形態の変化に対応する。
- ・保護者の育児の向上につながる情報を提供する。

3、地域との連携を推進する。

- ・近隣の様々な関係者との連携、連帯を深める。

3、評価項目の取組及び達成状況

評価項目	結果(※)	結果の理由
保育者自身の資質向上に努める	A	遊び・生活・行事・環境等について見直し・検討を重ね、コロナ禍の中でも発達に応じた保育実践ができた。2学期からケアカンファレンスを行い、気になる子どもについて全園で話し合いを重ね、どのような援助が必要かなど、全体で共通理解できるようになった。他学年・他クラスとの交流が増え、園全体で繋がりがもてるようになった。他園への見学は実現できなかったが、その分園内での研修や話し合いが充実しており、保育や子どもについて深く考えられるようになった。

<p>協力して保育にあたる人間関係、環境を整える</p>	<p>A</p>	<p>朝の会、保育後の話し合い、月1回のケースカンファレンス、学期ごとの保育の振り返りなど、語り合い・学びあいの機会が増え、クラスを超えた関わりが増えた。きりん組(預かり保育)・いちご組(未就園児保育)も基本的な思いを統一して、情報を共有しあい、互いの保育に活かせるようにした。</p>
<p>外部への情報発信とともに、本大学や外部との連携協力を強化し、意見聴取の機会を設ける。</p>	<p>A</p>	<p>コロナ禍でも、保護者や地域向け子育て講座「はらっぱ」を大学と協力して年3回開催した。「タートルだより」更新頻度を増やし、行事、遊びの様子、季節や子どもの成長による遊びの変化など、保護者を含め外部に発信し、本園の教育への理解を広げることができた。関係者評価委員会を年2回開催し、園の自己評価の評価、意見聴取の機会を設けた。</p>
<p>保護者が園と関わる機会を増やす</p>	<p>B</p>	<p>コロナの影響で保護者同士が顔を合わせる場(終業式、父母会の企画等)は減ってしまったが、「年長保育ボランティア」や「年中・長親子で遊ぶ日」「年中・長運動会」「年少ミニ運動会」など、初めての取り組みも含め出来ることを全て実施した。協力的な親、関心のない親の差があり、いろいろな親に参加してもらうことが課題である。父母会で上がった疑問、要望は、職員間で共有し、出来ることは受け入れるよう努めた。</p>
<p>保護者の育児向上につながる情報を提供する</p>	<p>B</p>	<p>始業式・終業式など節目の時に園長便りを配布し、本園の保育への理解を深めるようにした。保護者と直接会う機会が少なかった分、連絡帳、電話を活用し伝える機会を増やした。毎月のお便り、ブログ、懇談会等で子どもの姿、取り組み、成長過程を言葉や文章、写真で伝えることができた。コロナの状況が収まったら、保護者同士が支え合えるような機会を増やしていきたい。</p>
<p>保護者の生活形態の変化に対応する。</p>	<p>B</p>	<p>午前保育時や定員超えの場合も、できる限り預かり保育「きりん組」で受け入れ、保護者のサポートに努めた。</p>
<p>近隣の様々な関係者との連携、連帯を深める。</p>	<p>B</p>	<p>コロナ禍もあり、地域とは十分連携できなかった。例年行われていた幼保小の話し合い・交流活動がなくなってしまうが、こちらから働きかけて、近隣の小学校校長に来園してもらい、小学校の生活について話してもらった。状況が落ち着いたら、地域との連携を深められるように努めていきたい。</p>

4、具体的な目標や計画の総合的な評価結果

結果	理由
B	未曾有のコロナ禍の1年であったが、職員全員で話し合いを重ね、知恵を出し合っ、目標とした保育活動の充実、保護者との連携推進に最大限務め、実現してきた。地域との連携は十分できなかったが、状況が落ち着いたら、地域との連携を深められるように努めていきたい。

※結果について

A	十分達成されている
B	達成されている
C	取り組まれているが、成果が十分でない
D	取組が不十分である

5、今後取り組むべき課題

課題	具体的な取り組み方法
保育者のさらなる資質向上を目指す	多面的な視点から園内研修の機会を設けたり、十文字学園女子大学関係者に対して保育を公開する日を設けそれぞれの専門性から助言等を受けたりして、園全体の保育改善にさらに努める。フリーの保育者を交えて話し合いの時間を出来るだけ持って、共通理解をさらに深めていく。
保護者が園と関わる機会を増やす	園の保育に保護者が参加する機会（親子参加の催し、保育ボランティアなど）、保護者同士の交流の機会を増やすとともに、園長・主事・担任などが懇談や相談の機会を随時設定する。出来るだけ父母会の活動に園長・主事が出席するようにするとともに、年度末に保護者アンケートを実施して、保護者の要望を吸い上げ受け止める。相談・要望に対して、園としてどう考え、どう対応をしたかということを一丁に保護者に戻していく。
近隣の様々な関係者との連携、連帯を深める。	地域連携のプロジェクトに積極的に協力し、連携を深める。 他園の保育者や幼児教育研究者の参観申し込みを積極的に受け入れる。 13年前から継続している「はらっぱ」（十文字学園女子大学の教員や、外部講師による講演会）について広く発信して、近隣の子育て家庭の参加を広げていく。

学校評価シート（学校関係者評価）

幼稚園 学校関係者評価委員会
日 時 令和3年3月8日（月）
15:00～16:30
出席者 評価委員 6人
うち、内部評価委員 2人

1. 自己評価で設定した目標・計画、評価項目の設定は適切であったか

適切であった

2. 評価結果の内容は適切であったか

適切であった

3. 今後取り組むべき課題は適切に設定されているか

適切である、期待したい。

4. 今後取り組むべき課題は適切に行われているか

※質問の意図がわからないため、回答しません

今後取り組むべき課題、なので、行われているかの確認は取り組んだ後でないとわからない。

書くことはできません。